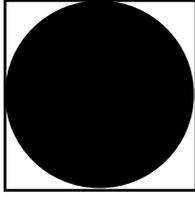


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 168

2023. 7

〒113-0033 東京都文京区本郷2-30-14 文京ビル206号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 岩崎仁美

E-mail: info@insea-in-japan.or.jp

“ChatGPT”の次を考える

公益社団法人 日本美術教育連合理事 西村徳行

私の実家には邦文タイプライターがある。「バケット」とよばれる板状の部品には、五ミリ四方の四角い枠が縦横に無数に並び、そこに2000文字以上の活字が差し込まれている。整然と並ぶ活字の位置をタイピストはすべて覚えており、印字したい活字の上に活字を機械的にひろう「ピックアップ」を合わせ、ハンドルを力強く押すと、活字が引き出されて印字される。邦文タイプライターは一文字一文字打ち込んでいくのでとても時間がかかる。その上、活字が反転していて、文字は上下を逆にしてバケットの枠に差し込まれているので、とても素人には扱えない。清書された手書きの文章を眺めながら猛烈な勢いで文章を打つ母を、いつも尊敬のまなざしで眺めていた。時代は流れ、ワープロが発売された。ワープロの登場は、それまでの邦文タイプライターからすれば大革命であった。打ち間違いは修正でき、文章をコピー&ペーストをすることもできる。何よりも文章を清書せずに、打ち込みながら文章を書くことができるようになった。我が家にワープロが登場するころには、邦文タイプライターが使われる機会もなくなり、母がタイプを打つ「タン、タン、タン」という勢いある音も聞こえなくなった。

人間は困難な状況に陥ると、何とかそれを乗り越えようと新しい何かを求め、これまで生き残ってきた。そして現在、「生成AI」と呼ばれる「ChatGPT」などが話題になっている。下書きもいらなければ、自ら文章を作成することもない。キーワードを打ち込み、その文章でよいのか、選ぶだけである。とうとう機械が文章まで作ってくれるようになったのである。いま、このChatGPTをはじめ、生成AIを教育現場でどのように扱うのが課題となっている。我々人間は、どのような文章にするのか、考える機会すらなくなってしまうのかもしれない。

しかし新しいものの出現は、新しい生活を生み出す。既存のものに足りない何かを克服しようと、新しいものとして出現したのである。歴史を見ればその繰り返しである。いつか「そういえば、『ChatGPT』とかあったね!」と懐かしむ時代も来るかもしれない。図画工作・美術科は、次世代のものやことの想起に関わる教科である。「ChatGPTの次は何か?」授業を通して子供達に問うてみたい。

第57回 日本美術教育研究発表会2023 案内

- 日 時：令和5（2023）年10月8日（日）9：00～17：00（予定）
- 場 所：東洋大学 対面+Zoomオンライン上（ハイフレックス）
オンライン参加のためのアクセスコード等は、発表者・参加者へ別途配信
- 主 催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）
- 後 援：文化庁（申請中）

※最新情報は、日本美術教育連合HPに掲載されますので、ご確認ください。

第13回 定時総会結果報告

■第13回定時総会（ハイブリット形式による）結果報告■

理事長 大坪圭輔

第13回定時総会は、対面及びZoomシステムによるハイブリット方式で5月14日に開催されました。下記に総会記事録を公開いたしますので、ご確認をお願いいたします。尚、総会議案書は連合HPにて開示しております。

公益社団法人 日本美術教育連合 令和5（2023）年度 第13回定時総会議事録
対面及びZoomシステムによるハイブリット方式

- 1 総会開催の決定：第7期令和4（2022）年度第8回理事会
- 2 総会議案及び開催方法の決定：第7期令和5（2023）年度第1回理事会
- 3 総会開催通知及び議案の公開、郵送による総会開催の告知：
日本美術教育連合ニュース167号に総会開催通知掲載及びホームページにて議案公開
- 4 議決の方法：第7期令和5（2023）年度第1回理事会承認
対面による発声及び挙手及びZoomシステムでの発声及び画面の目視によって決する。
- 5 開催日時：令和5（2023）年5月14日（日）午後1時00分～午後2時05分
- 6 開会の言葉：畑山未央事務局長より開会の宣言があった。
- 7 代表理事挨拶：大坪圭輔代表理事より、第7期の上半期にあたる令和4（2022）年度の評価と第7期下半期の方針を確認すべく、議論をお願いするとの挨拶があった。
- 8 総会成立宣言：畑山未央事務局長より会員数229名、委任状による出席85名、対面及びZoomシステムによる出席者38名、計123名の出席となり、定款第18条により総会が成立した旨説明があり、確認された。
- 9 議長選出：定款第16条に基づき、大杉健氏が議長に指名された。
- 10 議事録署名者指名：議事録署名人に山田猛会員が指名された。
- 11 審議事項
第1号議案 令和4（2022）年度事業報告の件
 - ①第7期活動方針上半期報告：大坪圭輔代表理事より、第7期上半期にあたる令和4（2022）年度の活動状況について、活動方針に照らし報告がなされた。
 - ②理事会等事業運営報告：同代表理事より、令和4（2022）年度の理事会等事業運営について報告がなされた。
 - ③公益目的事業1 研究促進事業報告：結城孝雄研究局担当理事より令和4（2022）年度の教育研究発表会を中心とする研究局の活動について報告がなされた。
 - ④公益目的事業2 国際事業報告：西村德行国際局担当理事より、令和4（2022）年度の国際会議を

中心とする研究局の活動について報告がなされた。

- ⑤公益目的事業 3 啓発・普及事業報告：三澤一実事業局担当理事代行より、令和 4（2022）年度の造形美術教育フォーラム及び造形美術教育力養成講座を中心とする事業局の活動について報告がなされた。

以上について議長は出席者に諮り、審議の結果、令和 4（2022）年度事業報告は原案通り承認された。

第 2 号議案 令和 4（2022）年度決算及び監査報告の件

- ①貸借対照表：西村德行財務担当理事より貸借対照表について報告がなされた。
②正味財産増減計算書：同財務担当理事より正味財産増減計算書について報告がなされた。
③財務諸表に対する注記：同財務担当理事より財務諸表に対する注記の報告がなされた。
④附属証明書：同財務担当理事より附属証明書について報告がなされた。
⑤財産目録：同財務担当理事より、財産目録について報告がなされた。
⑥貸借対照表内訳表：同財務担当理事より貸借対照表内訳表について報告がなされた。
⑦監査報告：榎原弘二郎監事より総会議案書を基に監査報告がなされた。

以上について議長は、出席者に諮り、審議の結果、令和 4（2022）年度決算及び監査報告は原案通り承認された。

報告事項 1 令和 5（2023）年度事業計画の件：大坪圭輔代表理事より、令和 5（2023）年度理事会等事業運営計画について説明があった。

以上の報告に対して、質疑は特になかった。

報告事項 2 令和 5（2023）年度収支予算の件：西村德行財務担当理事より、令和 5（2023）年度予算書について説明があった。

以上の報告に対して、結城孝雄研究局担当理事より、本会の財務状況を安定させるためにも、これまでの日本美術教育研究論集の購入及び大学図書館等での定期購読促進について、会員の協力要請がなされた。以上の報告に対して、他の質疑は特になかった。

報告事項 3 理事候補者選出選挙に関する申し合わせ事項の件：大坪圭輔代表理事より、「理事候補者選出選挙に関する申し合わせ事項」及び「理事候補者選手のための選挙管理委員会及び選挙業務に関する申し合わせ事項」を令和 4（2022）度第 7 回理事会で確認した旨報告があった。以上の報告に対して、質疑は特になかった。

報告事項 4 入会申込書の件：大坪圭輔代表理事より、昨年度の総会において会員より意見のあった入会申込書の会員推薦人の必要性について、理事会において検討した結果、経歴や資格等なく入会できる本会の性質上、何らかの身分保証人は必要との結論に至ったと報告があった。以上の報告に対して、質疑は特になかった。

その他：議長は出席会員に対してその他の意見等の有無を確認したが特に発言はなかった。

12 議長解任：以上をもって大杉健議長は議案審議の終了と、議長の解任を宣した。

13 閉会の言葉：畑山未央事務局長により閉会の宣言があり閉会した。

以上

(2) 正味財産増減計算書

令和4年4月1日から令和5年3月31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	51	51	0
受取入会金			
受取入会金	36,000	30,000	6,000
受取会費			
受取正会員会費	1,253,000	1,122,000	131,000
受取賛助会員会費	70,000	90,000	△ 20,000
事業収益			
論集広告料	160,000	180,000	△ 20,000
論集掲載料	589,500	332,000	257,500
造形美術養成講座	90,772	135,775	△ 45,003
論集購読料	5,100	4,000	1,100
研究発表会参加		1,000	△ 1,000
受取補助金等			
受取寄付金			
受取利息		3	△ 3
雑収益	670,208		670,208
経常収益計	2,874,631	1,894,829	979,802
(2) 経常費用			
事業費			
講師料	142,400	80,000	62,400
旅費交通費		14,032	△ 14,032
通信運搬費	163,989	336,100	△ 172,111
印刷製本費	1,120,206	886,420	233,786
賃借料	304,500	304,500	0
会議費		14,498	△ 14,498
委託報酬	244,650	189,000	55,650
雑 費	20,570	26,987	△ 6,417
事業費計	1,996,315	1,851,537	144,778
管理費			
会議費	21,447	10,400	11,047
旅費交通費			0
通信運搬費	30,514	83,241	△ 52,727
消耗品費		95,040	△ 95,040
印刷製本費		7,103	△ 7,103
賃借料	130,500	177,500	△ 47,000
保険料		24,000	△ 24,000
委託報酬	104,850	81,000	23,850
雑 費	12,087	15,015	△ 2,928
管理費計	299,398	493,299	△ 193,901
経常費用計	2,295,713	2,344,836	△ 49,123
当期経常増減額	578,918	△ 450,007	1,028,925
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常経常外増減額	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	578,918	△ 450,007	1,028,925
税引前当期一般正味財産増減額	578,918	△ 450,007	1,028,925
当期一般正味財産増減額	578,918	△ 450,007	1,028,925
一般正味財産期首残高	3,064,553	3,514,560	△ 450,007
一般正味財産期末残高	3,643,471	3,064,553	578,918
II 正味財産期末残高	3,643,471	3,064,553	578,918

(7) 正味財産増減計算書内訳表

令和4年4月1日から令和5年3月31日

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	内部取引等消去	合 計
	研究促進事業	国際事業	啓発・普及事業	小計			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
① 基本財産運用益							
基本財産受取利息			25	25	26		51
② 受取入会金							
受取入会金	3,600		10,800	14,400	21,600		36,000
③ 受取会費							
受取正会員会費	125,300		375,900	501,200	751,800		1,253,000
受取賛助会員会費	7,000		21,000	28,000	42,000		70,000
④ 事業収益							
論集広告料	160,000			160,000			160,000
論集掲載料	589,500			589,500			589,500
造形美術養成講座			90,772	90,772			90,772
論集購読料	5,100			5,100			5,100
⑤ 受取補助金等							
雑収益	233,500		179,348	412,848	257,360		670,208
経常収益計	1,124,000		677,845	1,801,845	1,072,786		2,874,631
(2) 経常費用							
① 事業費							
講師料			142,400	142,400			142,400
旅費交通費				0			0
通信運搬費	71,634		92,355	163,989			163,989
印刷製本費	843,210		276,996	1,120,206			1,120,206
賃借料	174,000		130,500	304,500			304,500
会議費				0			0
委託報酬	139,800		104,850	244,650			244,650
雑 費			20,570	20,570			20,570
事業費計	1,228,644	0	767,671	1,996,315			1,996,315
② 管理費							
会議費					21,447		21,447
通信運搬費					30,514		30,514
消耗品費							0
印刷製本費							0
賃借料					130,500		130,500
保険料							0
委託報酬					104,850		104,850
雑 費					12,087		12,087
管理費計					299,398		299,398
経常費用計	1,228,644	0	767,671	1,996,315	299,398		2,295,713
当期経常増減額	△ 104,644	0	△ 89,826	△ 194,470	773,388		578,918

(7) 正味財産増減計算書内訳表

平成4年4月1日から令和5年3月31日

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	内部取引等消去	合 計
	研究促進事業	国際事業	啓発・普及事業	小計			
2. 経常外増減の部							
当期経常外増減額							
他会計振替前当期一般正味財産増減額	△ 104,644	0	△ 89,826	△ 194,470	773,388		578,918
税引前当期一般正味財産増減額	△ 104,644	0	△ 89,826	△ 194,470	773,388		578,918
当期一般正味財産増減額	△ 104,644	0	△ 89,826	△ 194,470	773,388		578,918
一般正味財産期首残高	-514,468	△ 102,815	△ 2,610,766	△ 3,228,049	6,292,602		3,064,553
一般正味財産期末残高	△ 619,112	△ 102,815	△ 2,700,592	△ 3,422,519	7,065,990		3,643,471
II 正味財産期末残高	△ 619,112	△ 102,815	△ 2,700,592	△ 3,422,519	7,065,990		3,643,471

収 支 予 算 書

令和5年4月1日から令和6年3月31日

公益社団法人日本美術教育連合

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	1,200	1,200	0	
基本財産受取利息	1,200	1,200	0	
受取入会金	45,000	45,000	0	
受取入会金	45,000	45,000	0	注1
受取会費	1,470,000	1,440,000	30,000	
受取正会員会費	1,320,000	1,290,000	30,000	注2
受取賛助会員会費	150,000	150,000	0	
事業収益	850,000	850,000	0	
受取論集広告料	150,000	150,000	0	
受取論集掲載料	550,000	550,000	0	
造形美術養成講座	150,000	150,000	0	注3
受取補助金等	51,000	51,000	0	
受取寄付金	50,000	50,000	0	
受取利息	1,000	1,000	0	
雑収益	0	0	0	
経常収益計	2,417,200	2,387,200	30,000	
(2) 経常費用				
事業費	1,778,000	1,785,000	△ 7,000	
講師料費	40,000	40,000	0	
消耗品費	5,000	5,000	0	
印刷製本費	995,000	995,000	0	
通信運搬費	145,000	145,000	0	
諸謝金	60,000	60,000	0	
会議費	50,000	50,000	0	
賃借料費	273,000	280,000	△ 7,000	注5
委託報酬	210,000	210,000	0	
管理費	494,000	432,000	62,000	
会議費	165,000	165,000	0	
旅費交通費	10,000	10,000	0	
通信運搬費	10,000	5,000	5,000	注4
賃借料費	177,000	120,000	57,000	注5
消耗品費	2,000	2,000	0	
印刷製本費	5,000	5,000	0	
支払負担金	30,000	30,000	0	
委託報酬	90,000	90,000	0	
雑費	5,000	5,000	0	
経常費用計	2,272,000	2,217,000	55,000	
当期経常増減額	145,200	170,200	△ 25,000	
当期一般正味財産増減額	145,200	170,200	△ 25,000	
一般正味財産期首残高	3,234,753	3,064,553	170,200	
一般正味財産期末残高	3,379,953	3,234,753	145,200	
II 正味財産期末残高	3,379,953	3,234,753	145,200	

注1 新入会員15名として

注2 会員数220名として前年215名

注3 啓発事業部養成講座参加費

注4 改選年のため増額

注5 契約更新年のため増額

■公益社団法人日本美術教育連合 第8期新理事候補者選出選挙■ 公 示

公益社団法人日本美術教育連合「定款」及び「定款細則」、「理事候補者選出選挙に関する申し合わせ事項」、「理事候補者選出のための選挙管理委員会及び選挙業務に関する申し合わせ事項」にもとづき、第7期役員の任期満了に伴う第8期新理事候補者選出選挙を下記のとおり実施します。

記

1. 令和5（2023）年12月初旬（投票用紙受取日）から12月31日までを投票期間として、理事候補者選出選挙を行います。
2. 有権者は、令和5（2023）年投票が行われる年の9月1日現在において2年以上の会費滞納がない本法人正会員とします。
3. 第8期は、「令和6（2024）年5月開催予定第14回定時総会終了後から、令和8（2026）年5月開催予定第16回定時総会終了まで」です。
4. 有権者は、投票用紙の送り先である住所が変更になった場合、9月1日までに公益社団法人日本美術教育連合事務局に連絡してください。
5. 本法人定款第22条に定める任期の限度を超える理事は、被選挙人の権利を辞退することができます。なお、辞退する場合は、9月1日までに選挙管理委員会へ申し出てください。
6. 第8期新理事候補者選出選挙を実施・運営する選挙管理委員会（6月11日設置）は以下のとおりです。

委員長 山 田 一 美（運営委員）

委 員 小 林 貴 史（運営委員）

委 員 手 塚 千 尋（運営委員）

任期：令和5（2023）年6月11日から令和6（2024）年5月開催予定の
第14回定時総会終了まで

なお、選挙実施の詳細については、後日通知します。

以上

令和5（2023）年7月1日
公益社団法人日本美術教育連合
選挙管理委員会委員長

研究局より

■第57回 日本美術教育研究発表会 2023■ 【第一次案内】

日本美術教育連合理事・研究局運営委員長 結 城 孝 雄

本法人は1965年InSEA 東京世界大会の精神「国際理解と美術教育の前進」を基に組織され、今年で57回目の研究大会を迎えます。コロナ禍がようやく去りつつある今、4年ぶりの対面による開催を実施します。一方で、オンラインリアルタイム配信の利便性も活用しつつ、ハイフレックスによる同時配信を実施します。発表者、参加者の皆様におかれましては、対面、オンラインのいずれかを選択して参加していただきます。発表・参加申込の際に 対面・オンラインを記載してください。今年度は、開催日が会場の関係で、10月8日と例年より1週間早くなっていることにご留意ください。また、今回より、発表・投稿予定者の方に8月上旬に説明会を開催し、参加もしくは視聴された上でエントリーしていただくように準備します。

従来の口頭発表（発表20分+協議5分）の他に、①モジュール口頭発表（発表30分+協議25分）3コマも継続実施いたします。本会での発表は、『日本美術教育研究論集57 2024』への投稿資格となります。これまでの研究発表者は日本各地にわたり、各学校教育の教員、美術館学芸員、行政職、院生・学生、海外（韓国・中国・メキシコ）と多彩な内容でした。「美術を通した人間形成」と教育に熱意ある方々の研究発表とご参加を心よりお待ちしております。

参 加 要 項

- 開催日時：令和5年（2023）年10月8日（日） 9時～17時00分（予定）
終了後 懇親会開催予定
- 会 場：東洋大学（東京都文京区白山）対面+ZOOMオンライン上（ハイフレックス）
参加のためのアクセスコード等は、発表者・参加者へ別途配信
- 参加費等：参加費500円（概要集代として）事前申込みは、必要で、先着150名、会員以外の方でも参加できます。詳細はHPにて、9月上旬告知
『日本美術教育研究発表会 2023概要集 web版』を配信いたします。
- 主 催：公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）
- 後 援：文化庁（申請中）

研究発表申込WEB入力期限 8/14（月曜日）23:00 例年より締め切りが早くなっています

- 発表資格：共同発表者も含め、会員であること。入会には本会会員1名の推薦が必要です。新規入会希望者は「研究発表〈口頭発表〉申込書」と共に「入会申込書」を本法人HPから印刷し、本事務局長宛てに送信ください。身近に会員がいない場合は、下記の間合先にご相談下さい。入会時に、入会金3000円および本年度会費6000円の郵便振り込みが必要です。
<http://insea-in-japan.or.jp/about.html>
- 発表時間：〈通常口頭発表〉20分質疑応答5分移動・準備15分〔発表者総数により変更有〕

〈モジュール発表：3組募集〉30分＋質疑応答 25分移動・準備15分〔役員会で協議選定〕

□発表区分：Ⅰ群・Ⅱ群・Ⅲ群の3区分があり研究発表申込。WEBサイトにどれかを明記して下さい。

Ⅰ群：理論・実践研究論文（査読あり、投稿時に英文のサマリーが必要です）

Ⅱ群：実践研究報告等（査読あり、題目のみ英文標記）

Ⅲ群：研究ノート（査読あり、題目のみ英文標記）

□発表方式：プレゼンテーションソフトを用いた対面もしくはオンラインによる発表。

□発表申込：申込WEBサイトへの入力 期限厳守：令和5（2023）年8月14日（月曜日）23：00

WEBサイト名「第57回 日本美術教育研究発表会2023 研究発表申込」

<https://peatix.com/event/3622073>

- | | |
|----------------|---|
| 1) お名前 | 11) 発表時使用ソフト（power point・key note・gogle slide他） |
| 2) ふりがな | 12) （公社）日本美術教育連合の会員資格の有無 |
| 3) メールアドレス | 13) 発表区分（Ⅰ群、Ⅱ群、Ⅲ群） |
| 4) メールアドレス（確認） | 14) モジュール発表希望（あり、枠に余裕あればあり、なし） |
| 5) 郵便番号 | 15) 発表概要文 600字以内info@insea-in-japan.or.jpへ提出 |
| 6) 都道府県 | 16) 勤務先・職名（学生・院生は学校名・学年・専攻名 正式名称） |
| 7) 住所 | 17) 発表者全員の所属・氏名（氏名は <u>和英併記</u> 多数も連動表記） |
| 8) 建物名 室名 | 18) 発表題目／和・英表記 |
| 9) TEL | 19) 対面発表・オンライン発表の選択 |
| 10) 所属／役職 | 20) 説明会 参加・視聴 の確認 |
| | 21) メッセージ（特になし、記入は300字以内） |

入力が完了しましたら、返信メールが届きますので、必ずご確認ください、未完了の場合があります。

□概要文：期限厳守：令和5（2023）年8月14日（月曜日）23：00

E-mailの送付先：info@insea-in-japan.or.jp【氏名・所属（正式名称）題目・概要文 600字】

E-mailの件名に「●連合発表2023 申込「氏名」とお書き下さい

E-mailの送信後10日後以内に受付確認の返信がない場合は念のため再度送信して下さい

備考・問合せ先

□発表時程：9月上旬発行の『連合ニュース159号』に掲載し、会員に送付する予定です。

□問 合 先：研究局 運営委員長 結城孝雄 takaoyuki@tokyo-kasei.ac.jp

事務局長 北澤俊之 kitazawa@toyo.jp

□備 考：研究発表開催の1週間前の10月1日（日）9時より（30分程度）オンライン発表者の方は、接続テストを予定しています。本番時と同じ通信環境にて実施ください。詳細は、発表予定者にメールにて連絡します。

発表（投稿）予定者 説明会：8月5日（土）11：00から11：30 発表（投稿）予定者の方に発表、投稿に関しての留意点、注意点を研究局から説明いたします。予定されている方は、参加、もしくは録画を視聴されてからエントリーの手続を行なってください。アクセスコードは、前日までに連合HPのニュースで、お知らせします。

事業局より

■令和5年度 事業局活動方針■

日本美術教育連合理事・事業局運営委員長 三 澤 一 実

事業局では「造形・美術教育力養成講座」の企画運営と「美術教育連携交流事業」等を担当し、令和5年度は「出会いを広げる」をテーマとし、事業を展開していきます。

この間3年に及ぶコロナウイルスによる経済活動の停滞がありましたが、感染症5類引き下げに伴い日常生活との共存という新たな生活方針の中で社会が動き出しました。この3年間の停滞は、一方でデジタル化を促進し、オンラインによるコミュニケーションを促進させ、様々な情報の出会いを拡大させております。デジタル化が進む一方でチャットGPTや画像生成ソフトの出現・進化などに対して、これまでにない不安も広がり、今後批判的思考を持ちながら判断し使いこなす資質能力が今まで以上に必要となってきました。それには個人の体験から生まれるリアリティーの蓄積がますます重要となるでしょう。そこで本年度は体験することの意味を問う事業を重視し活動を展開していきます。

■第9期「造形・美術教育力養成講座」

「越境し拡張する美術」を造形・美術教育力養成講座のコンセプトと位置づけ、本年度は「体験が生み出す新たな視点」をテーマに全3回の連続講座を開催します。講座ではワークショップを通して社会における造形美術の役割や個人のなかに生まれる実感的な理解を深めるための講座を企画し、体験をもとにしてこれからの造形美術教育のあり方を考える切っ掛けとしたいと考えます。第一線で活躍されている講師の話と、ワークショップを通して、誰もがわかりやすく楽しい講座を目指します。

開催方法は対面開催を中心に、状況や内容によってはオンライン参加のハイブリッド方式での開催も検討します。詳細は今後ホームページに公開しますので随時ご確認ください。

名 称 日本美術教育連合「造形・美術教育力養成講座 2023」

期 間 令和5（2023）年9月以降 令和6（2024）年3月末まで。全3回

内 容 第1回「プロに学ぶ写真表現との出会い」第2回「コミュニケーションを生み出す新たな取り組み」第3回「新しい美術館との出会い」を案として計画しています。

参 加 費 有料

参加方法 オンライン申し込みによる。次号連合ニュースとHPにて参加案内を致します。

参加人数 各講座30名を予定

そ の 他 全3回の内2回以上の参加者については「造形・美術教育力養成講座修了認定書」を授与します。（要申請）

■美術教育連携交流事業

先が見通せない世の中ですが数年後には学習指導要領の次期改訂に関わる作業が始まります。そこで、今、そしてこれからの時代をどのように捉えていくべきかを、教育的視点と芸術的視点の2方向からこれからの時代におけるアートの働きを共に考えていくシンポジウムなどを企画する予定です。詳細はHP等でご確認ください。10月以降に開催予定。

事務局より

■2023年公益社団法人日本美術教育連合総会記念講演会〈報告〉■

事務局 局員 佐々木 敏 幸

日時：令和5（2023）年5月14日（日）14：30～16：30

形態：対面及びZoomシステムを用いたオンライン方式（無料）

会場：東洋大学白山キャンパス5号館1階5104教室

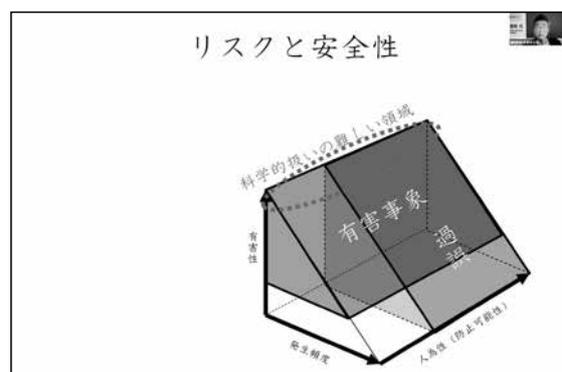
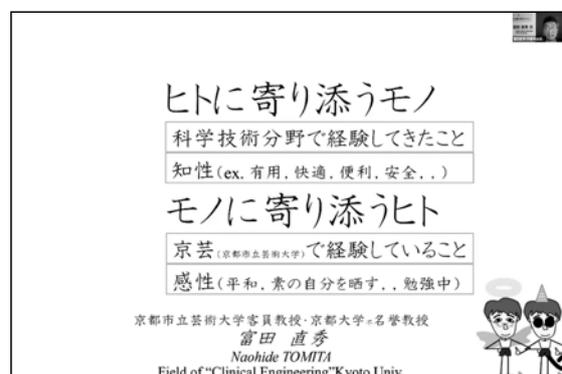
題名：「ヒトに寄り添うモノ」と「モノに寄り添うヒト」

講師：富田 直秀氏 京都市立芸術大学客員教授・京都大学名誉教授

今年度の総会記念講演会では、「『ヒトに寄り添うモノ』と『ヒトに寄り添うヒト』」の演題で、京都市立芸術大学の客員教授であり医学者の富田直秀氏より御講演をいただきました。美術教育を通じた感性教育にまつわる報告や考察、参加者との双方向による質疑応答などの多彩な内容で、当日は全国各地から対面18名及びオンライン51名の計69名の参加がありました。

冒頭では、京都市立芸術大学の美術学部生へ実施した総合基礎実技において「身体性をともなった時間的・空間的表現」という題材による授業実践の紹介がありました。学生が野原に埋まって地面から顔だけを出すというパフォーマンスでは、コロナ禍におけるマスク生活の日常との対比から考える個人の識別や存在、異質な状況設定で見る肌の色など、体験から導く感覚や感情の想起にまつわる実践報告がありました。他に、地下道の入り口にゴミ袋を張って内と外の境界を越境する演習や、学生が教員へ指示を出しながら木々に紐を張らせ、最後に学生がハサミで切るという演習などの報告もありました。人や場との創造的な出会いや、表現活動を通じて「教える」「教えられる」の関係性を組み替える試みなど、実体験を通して身体拡張や芸術指導の在り方を多角的に学ぶことができる取り組みを知ることができました。

これら学生との感性教育にまつわる協働をふまえ、「失敗して学ぶ」や「危うさを見守る熱量」などをキーワードに、これまで御専門とされてきた医学・工学との関係性について医療技術や災害対処へと話題は発展しました。特に、人工関節の研究を通じた人材育成や企業における技術開発の現





実について、安全性等の科学技術分野における研究の発展のためには「感性」が必要との指摘がありました。また、「批判的」な視座から、知性（形式）と感性（身体）を往還することの大切さについても触れられました。たとえとして、車選びをする際の機械工学系の学生を例にあげ、車の速さや荷物の積載量などの客観的なデータを重視する視点をもつとしても、実際に購入する場合はエンジン音やデザインへの愛着など感性を大切にする観点をもつはずと述べられました。このことから、感性を重視するあまり、安全性の度外視や自他の「共感」への相違すら孕んでいくのではないかという、感性の暴

力につながる側面についても触れられました。これら課題への説明として、大腸菌の代謝経路の図や「イキモノ」の過渡的状态の連鎖を例に、「多様性」から捉えることの必要性へと話は進みました。そして、多様性とは知性か感性か「みる」立場によって異なるという御話もありました。具体例として、科研費の審査過程での審査員としての視点やSTEAM THINKING LABで行ったワークショップの数々から、多様な立場からみた感性の違いを具体的に挙げられました。他に、御自身のお孫さん（乳児）が居室ドアを開ける動画を流し、人間が初めてドアを開ける行動を分析的に観察し、発達には知性と感性の両輪が必要だということを示されました。これら「多様性」について多角的に考えながら、今後のAIの発展による未来社会を想定し、知性及び感性教育の重要性について考察されました。「感性教育に平和へのヒントがある」という内容でまとめられました。

御講演を基に、参加者との双方向の質疑応答となりました。会場からは、現代の若者コミュニティーにおける「キャラ」（与えられた性格や役割）を演じるという対人関係上の問題や、福島原発事故、医学現場での患者を診る意識の現実など、多様な立場における感性と知性の在り方および必要性について意見が交わされました。日常的な出来事から社会的な史実まで、感性に基づいた判断の大切さについても会場全体で共有できました。質疑の終盤では、AIの席卷する現代と、「サザエさん」に登場するマスオさんの優しいキャラクター像との類似性等を例にあげ、「感性教育の必要性」について活発な意見交換となりました。平和や研究をつくることをアートと捉えるべきとする、富田氏の言葉が印象的でした。科学と芸術の双方の領域を経験された富田氏の姿勢からは、知性も感性も含む「多様性」に寄り添いながら、アーティストを育てるということだけではない美術による教育の重要性及び可能性について、改めて深く考える学びの機会となりました。

国際局より

■InSEA情報 (InSEAホームページから) ■

日本美術教育連合理事・国際局運営委員長 西村 德行

InSEAホームページ (<https://www.insea.org>) には、InSEAのマニフェストや沿革とともに、世界会議やフォーラム、ウェビナーなど、InSEA主催の各種イベントが紹介されています。ここでは、ホームページに掲載されている最近の催しについてご紹介します。

□InSEAアジア地区ウェビナーが『DRAWING: VOICE FROM ASIA』をテーマに、5月20日に実施されました。「ドローイング」という用語は、美術や芸術教育においても、さまざまな方法や視点から解釈できます。ウェビナーには、アーティスト、美術教育者、学生がプレゼンターとして参加し、アジアの視点から絵を描くストーリーについて語られました。日本からは、小学校図画工作専科の先生が発表されました。

□InSEA世界会議2023が『Fault Lines (断層線)』をテーマに、トルコ西部チャナッカレで2023年9月4～8日まで開催されます。ヨーロッパとアジアの地理的、文化的な接点となるトルコは、多数のプレートがせめぎ合う地震大国でもあります。この地にある「断層」を比喻として用い、芸術教育が今日的課題の解決にどのように貢献できるかが話し合われます。



大会ロゴ (InSEAホームページから)

■InSEA世界会議2023ホームページ (<https://www.insea2023.org/en>)

□InSEA世界評議会2023-25役員の選出選挙が行われました。新しい時代の幕開けとなります。現InSEA世界評議会アジア地区評議員の佐藤真帆先生 (国際局局員・千葉大学) は、これでご退任となります。これまで世界と日本の美術教育をつないでくださった佐藤真帆先生に、感謝の意を表したいと思います。有り難うございました。

事務局より

■事務局便り■

事務局長 畑 山 未 央

□会員の異動（敬称略）

〈退会者〉高島利佳子様

（これまで連合を支えていただき、まことにありがとうございました）

〈入会者〉丸山松彦様、劉錡洋様、LIU XUN様、松永かおり様、金山和彦様、布山タルト様

（これからどうぞよろしく願いいたします）

□定時総会「出欠はがき」返送のお礼

5月14日に開催された、令和5年度 第13回定時総会に関わる出欠はがきの返送にご協力いただきましてありがとうございました。おかげさまで総会議事録にありますように、無事総会を成立させることができました。ここに改めて会員のみなさまのご協力に感謝申し上げます。

□令和5年度（2023年度）会費納入のお願い

本年度会費納入のお願い

令和5年度会費 6,000円 を 納入してください。納入期限 2023年8月18日（金）

【郵便振替】

（公社）日本美術教育連合 口座番号00170-1-86036

【ゆうちょ銀行以外の金融機関（ネット銀行を含む）からの送付先】

《銀行名》ゆうちょ銀行《支店番号》019《預金種目》当座《口座番号》0086036

*同封の振り込み用紙をご利用ください。（恐れ入りますが手数料はご負担ください。）

*過去3年以上会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合「除名」という対応をとらざるを得ません。ぜひ納入にご協力ください。なお、すでに納入済みの方におかれましては、ご対応に感謝申し上げますとともに、今回のお願いの行き違いによる失礼をお許しください。

□お問い合わせ先：公益社団法人日本美術教育連合 事務局 畑山未央

〒264-0007 千葉県若葉区小倉町1639番3 植草学園大学 発達教育学部

TEL：043-233-9306（研究室）

E-mail：m-hatayama@uekusa.ac.jp